


年報 2024

 敬愛短期大学
自己点検・評価委員会

令和6年度末 委員会活動の自己点検

教務

委員会

1. 令和6年度事業計画に基づいた実施項目の評価

実施項目	達成度	補足説明（必要に応じ）
・カリキュラム変更に伴う卒業要件単位、科目等の見直し	C	2025年度のカリキュラム修正を見据えた「領域」の複合科目の設置、卒業要件単位の圧縮等の検討にとどまった
・ゼミ導入による担任制のあり方と効果的な運用を検討する	B	クラス担任と敬愛スタートアップゼミ、敬愛ブラッシュアップゼミでのゼミ担当との役割分担を明確化し、クラス担任、ゼミ担当者、窓口対応職員、養護職員、学生カウンセラーなどからの情報を教職員が共有化し、一定程度早い段階で学生をサポートすることができた
・2.5教育（入学前教育）の充実	A	令和5年度同様に実施できた
・系列校のうち敬愛学園高校との教育課程の高大接続のあり方について検討する。	B	敬愛学園高校との「総合的な探究の時間」での協力を行った
・これまでのクラス制による授業実施、行事の参加等は堅持しつつ、ゼミ制を導入するなどによりクラスの枠を超えた交流促進を図る	A	敬愛スタートアップゼミでの「遊び体験」、「成果報告会」での発表を集大成とした敬愛ブラッシュアップゼミでの活動等をとおして、クラスを超えた交流促進がなされている。
・ゼミ、影絵、オペレッタなど授業科目の学習成果の発表会、教育実習報告会、ふれあいピアノコンサート、ビブリオバトルなど多数の学習成果を発表する機会を提供する。	A	保育・教職実践演習での「実習報告会」、卒業研究としての「敬愛ブラッシュアップゼミ」報告会を実施できた
・「日本語検定（3級）」のあり方の検討、及び「ベビーシッター」の合格率70%、本学で取得可能な資格の受験、申請増加を目指す。	B	<p>国語力向上のための方策として「日本語検定（3級）」受験の奨励ではなく、入学前教育でのレポート課題やスタートアップゼミでの提出課題を教員が添削する試みを行った。「認定絵本土」「ベビーシッター」「保育英語検定3級」「おもちゃインストラクター」「ピアヘルパー」「准学校心理士」の資格取得を奨励できた。</p> <p>[R6実績] 「日本語検定（3級）」:実施せず、 「幼保英語英検」2級 1名合格、3級 5名合格、「認定絵本土」取得率:73.2%、「ベビーシッター」取得率:57.1%、「ピアヘルパー」:9名、「おもちゃインストラクター」:62名、准学校心理士:6名。</p> <p>[比較]令和5年度→令和6年度 「認定絵本土」:71.8%→73.2%</p>

		「ベビーシッター」：85.9% →57.1% 「ピアヘルパー」：24名→9名 「おもちゃインストラクター」：24名 →62名 「准学校心理士」：0名→6名 「幼保英語英検」2級0名→1名、3級 5名→5名
・「認定絵本土」資格を取得した卒業生の、卒業3年後の「絵本専門士」資格申請をサポートする仕組みを構築する	A	HP等を活用した「絵本専門士」資格申請の奨励し、「絵本専門士」資格申請のための講座を開催し、当該卒業生へのサポートができた (2名受験)
・学習成果の見える化(学習成果の「量」と「質」の測定方法)の検討、直接評価を検討し、実施する。	A	令和7年度導入に向けて直接評価を作成して、シラバスに明記できた
・「離職者等再就職訓練事業」入学者への対応	A	社会人経験者である訓練生が現役学生と共に高め合える良い学習環境の構築に努める。また今年度もキャリアコンサルタントによる面接を実施し、担任教職員による面談指導も行い、訓練生の学修への適切な支援を実施した
・修学支援が必要な学生への対応	A	ゼミ担当者を中心に欠席が続く学生を早期に把握し、聞き取りや面談を行い対応するなど有効な中退者防止の措置を講じ、1年生の中途退学者を防ぐことができた。

備考

1. 上記のような様式で作成願います。

2. 評価基準(達成度)は次のとおりです。

・達成した	A	・概ね達成した	B
・達成半ば	C	・実施しなかった	D

1. 令和6年度事業計画に基づいた実施項目の評価

実施項目	達成度	補足説明（必要に応じ）
<p>〈事業計画より〉学生主体の活動や行事の支援 学生が自主的に楽しい行事を運営できるよう支援し、移転後の新しい形での学生生活に対する満足感が持てるようにする。本学の教育成果や学生の感動体験を共有できるよう動画や写真を記録する。学生総会や「だーろ」研修会等を通してより学生の意見を聴き、対応できることは反映させていく。（Instagram2000回再生、いいね50を目標）</p>	<p>A</p>	<p>学生関連の記事について積極的に提供または、撮影依頼ができた。卒業式、チューター研修、オリエンテーション、学生総会、ダンス発表会、フェスタ、クリスマスコンサート等は、2000回を超えている。</p>
<p>〈事業計画より〉ゼミ・クラス活動の活性化、クラスを超えた関わり ダンス大会、レクリエーション大会やフェスタなど行事によるクラスを超えた関わりを活発化する。移転後もクラスを超えた企画を行う。80%以上の参加率にする。</p>	<p>B</p>	<p>ダンス発表会 1年58%、2年73% レクリエーション大会 1年86%、2年68% フェスタ 1日目92%、2日目88%</p>
<p>〈事業計画より〉部活動・サークルの充実 部活動の案内を在学生に対し丁寧に行っていく。部活動の運営やサークルの立ち上げについては学生会に諮り、学生の希望を反映させ整備し、活動場所の確保などの支援を行う。</p>	<p>A</p>	<p>環境の変化もあり、現在活動している部活動は、バレーボール部、ダンス部、吹奏楽部、軽音部、美術部である。</p>
<p>〈事業計画より〉地域活動の活性化 ①「学生会」「チューター」「絵本コンシェルジュ」「フェスタ実行委員会」は、地域を視野に入れた貢献ができるようにする。 ②敬愛大学地域連携センターと連携し、学生に分かりやすいボランティアの手続きの説明をする。千葉市・稲毛区との交流を積極的に図る。</p>	<p>A</p>	<p>・絵本コンシェルジュ、フェスタ実行委員会は、地域との交流を図った。 ・年度当初に地域連携センターよりボランティアについての講話の機会があった。</p>
<p>〈事業計画より〉教育相談の組織化 ①組織的な相談体制づくり・危機管理体制の充実。 ②ストレス等については情報共有を図り多方面から支援できるようにする。困り具合テストを実施して適応に困難がある学生は早期に発見できるようにする。 ③問題を抱えやすい奨学金受給者への面談の徹底を図る。</p>	<p>A</p>	<p>・副学長を中心に危機管理体制が取れた。 ・教育相談、奨学金受給者の把握については、ゼミ担当が中心に行っている。困り具合テストについては見直しをする。</p>

<p>〈事業計画より〉リーダー養成、学生の成長を促す関わりリーダー研修会などを通し、学生がリーダーとしての態度や知識を身につけられるようにする。行事や活動をコンパクトにし、且つ充実したものとする。教職員は、検討を重ね、フレッシュマンセミナーなど、大学と交流し、学生に対する研修会の内容を見直す。また学生一人一人の「社会人基礎力」を培うような対応を普段から教職員が意識して実践するようにする。</p>	<p>A</p>	<p>リーダー研修、チューター研修、各係活動の打ち合わせや活動支援を行った。学生が主体的に活動することにより、得られる経験を今後も大切にしたい。</p>
<p>〈事業計画より〉生活リズム改善の指導 生活リズムが身につけていない学生に個別指導していく。</p>	<p>A</p>	<p>ゼミ担当教員が面談の中で個別指導を行った。保健室、相談室との連携の在り方を今後は検討していく。</p>
<p>〈事業計画より〉ボランティアの推進 2023 年度新設のボランティアサークルや美化・ボランティア委員会の活動を支援する。</p>	<p>移行する</p>	<p>地域連携センターと連携し、ボランティアの推進について検討していく</p>

備考

1. 上記のような様式で作成願います。
2. 評価基準（達成度）は次のとおりです。
 - ・達成した A
 - ・概ね達成した B
 - ・達成半ば C
 - ・実施しなかった D
3. 提出締切日、令和7年 月 日（金）までに事務局長に提出願います。

1. 令和6年度事業計画に基づいた実施項目の評価

実施項目	達成度	補足説明（必要に応じ）
<ul style="list-style-type: none"> 現代子ども学公開講座 	A	<ul style="list-style-type: none"> 9月23日に絵本作家 真珠まりこ氏を迎えてSDGs関連の講座を行った。
<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会 	A	<ul style="list-style-type: none"> KEIAI ☆フェスティバル2024において、学生の研究、ゼミや授業の様子についてポスター発表、加えて親子対象のワークショップを行った
<ul style="list-style-type: none"> 卒業生との共同研究 	A	<ul style="list-style-type: none"> 8月に1. 『気になる子ども』への個別的ー全体的アプローチ 千成幼稚園 理事長 安川裕樹氏 2. 『気になる子ども』との関わりによる子育て支援 こどもの森星川こども園 主任 細井このみ氏に講話をいただき、その後参加者においてグループディスカッションを行った 2月には8月の研究会から学んだことを生かされているかどうかの情報収集を行った。
<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援についての活動の試み 	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度までのニーズ調査に基づき、今年度は実際に子育て支援の活動を本学で5回実習した。学生の学びにつながることで、何か参加者が一緒に行い参加者同士が会話できることを意識し、ゼミ生を交えての子育て支援活動を行った。 自治体や近くの保育園の子どもたちを招待する等保育現場との連携による「保育者・保育」に関する学びの仕組みの構築を開始した。 本学えほんのもりで、学生ボランティア参加による絵本の読み

		<p>聞かせイベントを実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体子育て支援課とのコラボ事業への学生派遣は行わなかった。 ・子育ての負担感、不安感を低減させる支援内容の検討は昨年度までで終了した。
・高大連携・高大接続教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・市川南高等学校との新たな連携協定の締結 ・出前講座の充実と学生派遣の実施
・年報・ニュースレター発行	A	<p>年報については予定通り発行した。ニュースレターは教職員の移動や移転を踏まえ、年度初めに発行した。</p>

2. 令和7年度 委員会の実施計画（項目）

実施項目	補足説明（必要に応じ）
・現代子ども学公開講座	11月24日（祝）、井桁容子（保育実践研究家、非営利団体コドモノミカタ代表理事）、南光代（認定こども園千成幼稚園 園長）をお迎えして「子どものウェルビーイング(Well-being)を支えるための大人の関わり方」の講演をしていただく。
・研究発表会	総合子ども学研究所総会にて、紀要、年報で執筆した内容をもとに、教員の研究発表を行う。
・卒業生との共同研究	絵本の勉強会を立ち上げ、絵本の研究活動を現場の保育者と共に行う。
・子育て支援についての活動の試み	ブラッシュアップゼミと共同で後期に子育て支援活動を10回程度実施する。
・高大連携・高大接続教育	保育コースをもつ4高校とのつながりを深める。高校のニーズに合わせて、「保育」の学びを提供する。
・研究活動	年度のテーマである子育て支援に関連する研究の推進を行う。
・年報・ニュースレター発行	年1回ずつ発行する。

備考

評価基準（達成度）は次のとおりです。

・達成した A

・概ね達成した B

・達成半ば C

・実施しなかった D

1. 令和6年度事業計画に基づいた実施項目の評価

実施項目	達成度	補足説明（必要に応じ）
・定員充足。入学者を150名以上とする。	B	達成率94%（141名）
・学校推薦型選抜（系列校と指定校）から、定員数の半分（75名）を確保する。	B	達成率87%（65名）
・総合型選抜と一般選抜から、定員数の半分以上（75名以上）を確保する。	B	達成率92%（69名）
・充実した奨学金制度(*)を連携協定校へPRし、活用を促進する。 えほんのもりチャレンジ40名、学びアピール15名の申し込みを目標とする。 (*前年度実績) えほんのもりチャレンジ(35名)、学びアピール(14名)	B	学びアピールは昨年度と対比で14→4名、えほんのもりチャレンジは35→42名となった。
・男性保育士の確保のため、男性受験生人数10名以上を目指す。	A	達成率100%（10名）
・ブランディングの構築を行う。 例：他校と差別化できる大学案内 短大のカラーコート設定および試作専用 広報媒体の特色づくり	A	全教員で本学のブランディングは次年度も徹底していく。
・ホームページの流入数を増やす	B	生徒の関心としてSNSにシフトしている傾向がある。
・SNSで入試や学生生活、授業の様子を配信 再生回数、「いいね」の数を増やす	A	行事や日常生活などタイミングを図り展開したが、次年度もより強化していく。

備考

1. 上記のような様式で作成願います。

2. 評価基準（達成度）は次のとおりです。

・達成した	A	・概ね達成した	B
・達成半ば	C	・実施しなかった	D

1. 令和6年度事業計画に基づいた実施項目の評価

実施項目	達成度	補足説明（必要に応じ）
・就職支援講座（就職活動支援）	A	1年生 前期7回・後期4回 （合計 931名参加） 2年生 前期7回・後期6回 （合計 352名参加） 外部講師による社会人基礎力養成講座を年間に渡り開講、他新規講座として企業の協力を得て「スーツの着こなし」「金融リテラシー」講座を開講した。 授業を考慮した開講時間にしたが、講座参加者の増加が課題である。開講時間の検討、周知方法の再検討が必要である。
・公立幼保等採用試験対策講座（2次対策含む）	A	前期：1次試験対策 2回 2次試験対策 2回 後期：2次試験対策 4回 （合計53名参加） 集合方式での講座の他、希望者にはキャリアセンターにて模擬面接や書類添削を実施した。
・学内就職説明会 （外部団体主催の説明会を継続実施、短大主催の説明会の計画立案）	A	近未来保育研究所主催による学内就職説明会を実施した。学生のボランティアや就職活動のきっかけ作りとして1年生は、原則全員参加、2年生は、希望者のみの参加とした。参加園：25法人 短大主催の学内保育園説明会については、次年度8月実施予定で企画中。
・卒業生及び就職先アンケート	A	紙媒体からWEB回答方式に変更した。 卒業生アンケート：1月に発送、2月回答期限。（回収率32%） 就職先アンケートは、2月に発送、3月回答期限。現在、集計中。合わせて4月の教授会で報告予定。
・就職ポートフォリオ実施方法の検討及び一部試行	D	検討できていない。
・キャリアガイド作成	A	内容を再度確認し入稿予定。4月、印刷、納品予定。

令和6年度末 委員会活動の自己点検及び次年度計画

実習委員会

1. 令和6年度事業計画に基づいた実施項目の評価

実施項目	達成度	補足説明（必要に応じ）
・教育実習、保育実習に関する実習資格基準の運用	A	2024年度より運用開始した「実習実施及び実習実施後の中止等の条件（判断基準）について」に則って実習に関する諸状態に対する指導、対応を実施した。一部、実情に合わせた修正をする見込みである。
・実習前の指導と実習後のフォローの計画と実施	A	都度、実習開始前の個別面談を行った。とくに実習合格点に満たない者への追加指導を対象者に実施した。
・実習の手引き・実習記録の見直し	A	毎年見直し、修正を行っているが、とくに三種別共通の手引きの見直しを重点的に行った。また現在も行っている。
・実習評価項目の検討	B	学生個人の自己点検表と実習先からの評価の整合性を図るための検討を今後行う予定である。

2. 令和7年度 委員会の実施計画（項目）

実施項目	補足説明（必要に応じ）
・実習実施基準の運用	部分的な改訂が予定されているが、6年度に開始した基準を適切に運用する。
・実習前の指導と実習後のフォローの計画と実施	学生の実態に合わせた個別指導をするが、ゼミ担当者にも対応協力を求めるようにする。
・実習の手引き・実習記録の見直し	学生にとって理解しやすい実習の手引き、実習記録にするよう内容の検討をする。
・実習評価項目の検討	実習先で評価しやすいよう、また学生の実態に即した評価項目となるよう検討する。

備考

1. 上記のような様式で作成願います。

2. 評価基準（達成度）は次のとおりです。

・達成した	A	・概ね達成した	B
・達成半ば	C	・実施しなかった	D

1. 令和6年度 事業計画に基づいた実施項目の評価

実施項目	達成度	補足説明（必要に応じ）
<p>・稲毛移転に伴い「子育て支援」事業を総合子ども学研究所と連携して役割分担を行う。メディアセンターとしては子育て支援施設の役割のひとつとして「えほんのもり」の提供、というスタンスで活動を援助する。</p>	A	<p>総合子ども学研究所の企画事業においては、関連絵本の貸出を行うなど連携して行った。また、「えほんのもり」は、地域の親子連れの方々に日々親しまれており、継続的に利用されている。</p>
<p>・学生の読書離れに関して図書係、メディアセンター職員を中心とした読書推進する。</p>	B	<p>図書係の活動として、敬愛フェスティバルでのビブリオバトル・絵本の読み聞かせの実施、ポップ・「えほんのもり」のエリアマップの作成が挙げられる。メディアセンターでは「YomuYomu運動」「選書ツアー」「図書館の棚、貸します」などの活動を行ったが、短大生の参加者はほぼいない状況だったため、関心を引く工夫、別の取り組みの検討が必要である。</p>
<p>・授業でのメディアセンター利用をすすめ、メディアセンターへの入館のハードルを下げる。</p>	A	<p>事前および授業中に絵本を借りるよう指示する教員も多く、多くの学生が「えほんのもり」に絵本を借りに来た。また、課題のために必要な図書をメディアセンター2Fにて探す短大生も見受けられた。</p>
<p>・PCのかわりにiPadで書類作成、インターネット検索ができるよう体制を整える。</p>	B	<p>iPadは佐倉から移設した。インターネット検索に加え、Googleドキュメント、スプレッドシートを利用した書類作成は可能な環境となっている。</p>

備考

評価基準（達成度）は次のとおりです。

- ・達成した A
- ・達成半ば C

- ・概ね達成した B
- ・実施しなかった D

1. 令和6年度事業計画に基づいた実施項目の評価

実施項目	達成度	補足説明 (必要に応じ)
令和7年度に予定しているカリキュラム変更、並びに今後教務委員会と連携して検討する新たな学習成果及びディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを踏まえ、学生が各授業のねらいと到達目標を明確に認識できるよう、教員に対してシラバス表記時の配慮や授業内容の工夫等を行うよう周知する。	A	ディプロマポリシーの内容に関連して科目を3つに分類し、関連しディプロマポリシーに沿ってシラバスの到達目標を記載できた。
保育者養成校として、卒業後の保育者としての実践に直結する授業の在り方を検討するとともに、免許資格を取得せず卒業する学生に対して、個々の進路等に応じた学びを保証する科目、科目内容について検討する。	A	免許資格を取得せずに卒業する学生に対して取得を推奨している「教育・保育支援体験Ⅰ・Ⅱ」を「社会貢献・ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」と変更し、科目内容にふさわしい科目名に変更した。
アクティブ・ラーニングを含めた授業全般に関する研修を年1回以上実施する。稲毛キャンパスの新棟の教室環境等も踏まえながら、敬愛大学の教員との合同研修や意見交換を行う。	B	授業に関する学生へのヒアリング結果をもとに、講師説明会で教員にフィードバックし検討した。敬愛大学との連携については大学・短大合同のFD研修会を通して意見交換を行った。
稲毛キャンパスの新棟の教室環境等に対応したICT教育に関して、敬愛大学の教員との合同研修や意見交換を年1回以上実施する。	D	ICT教育に関する敬愛大学との連携を模索したが、研修テーマの点で難しく学園研修会以外にも実施することは難しく、それぞれ実施することとした。

備考

評価基準 (達成度) は次のとおりです。

- 達成した A
- 概ね達成した B
- 達成半ば C
- 実施しなかった。

2. 敬愛短期大学

01 広報・募集活動

本学において学生の確保は喫緊の課題である。一定数以上の志願者・入学者を確保するため、広報及び募集活動の質的向上と、学生の安定的な確保に取り組み、受験生をはじめとするステークホルダーから選ばれる短大となることを目指す。

中期計画 2029	2025年度 事業計画
I. 広報及び募集活動の質的向上	
1. 本学の入試制度と親和性の高い受験生とその関係者に対する情報発信力を高める。	1-1: 高校生に訴求効果の高いwebコンテンツ(ニュース記事、SNS、youtube動画)の充実を図る。また、そのための組織作りを行う。
	1-2: 「短期大学生調査」結果をもとに、本学の強み・弱みなどの客観的な環境分析を行い、本学の特徴を明らかにする。
	1-3: オープンキャンパス及び保育体験講座への誘導を図るため、ターゲットを絞ったWeb広告やデジタルコンテンツ(SNS)の活用、DMの送付等を行う。
2. 高校訪問、オープンキャンパス、模擬授業、学校説明会等の募集活動の再構築を図る。	2-1: 在学生の意見を取り入れ、オープンキャンパスの開催時期に適した、受験生が楽しめるようなプログラムを企画・提供する。
	2-2: 保育志望者を早期に確保するため、「保育者のたまご講座(ほいたま)」を夏休み期間を中心に、対象地域を千葉県内全域に拡大して実施する。
	2-3: キャンパス移転後の立地を踏まえ、高校訪問対象地域を千葉県内の他、東京都東部、茨城県南部及び広域通信制高校へ拡大する。

II. 学生の安定的な確保

1. 年内入試を重視し、一定数以上の志願者・入学者を確保する。

1-1: 奨学金制度（「えほんのもりチャレンジ」「学びアピール」）の名称変更等を行い、奨学金制度の周知徹底を図る。特に保育基礎コース設置校や教育提携締結校に対しては、早期に訪問して個別説明を行う。

1-2: 同窓生推薦制度の出願条件を見直し、志願者・入学者の確保に努める。

1-3: 一般選抜入試の特待生条件を充実させ、四大志望者が本学を併願する動機づけとなるような入試とする。

2. 修学・学生支援等の取組を強化し、収容定員を充足させる。

2-1: KCNを活用し、クラス担任やゼミ担当者が入学から卒業まで継続した修学・学生支援を行う。

2-2: 保育者志望から進路変更した学生に対し、卒業できるよう支援する。

2-3: 1年終了時点で、充足すべき免許・資格取得要件を設ける。

2-4: 毎月の教授会終了後に、学生に関する情報共有を行う。

2-5: 「短期大学生調査」「卒業生調査」「FD委員会による学生への聞き取り調査」等の結果を修学支援に活用する。

3. 内部進学者の確保に向けて、系列校との連携を強化する。

3-1: 敬愛学園高校の「総合的な探究の時間」や系列校全校の「家庭科（保育分野）」への協力により、保育を志望する生徒を増やす。

3-2: 系列校で開催される三者面談時に短大専用ブースを設置し、短大の魅力や強みを生徒や保護者に具体的に伝える。

<p>4. 「離職者等再就職訓練事業」による訓練生の受け入れや男子学生等の、多様な入学者を増やす。</p>	<p>4-1: 「離職者等再就職訓練事業」の応募者対象説明会を土日祝日に開催し、在学生との情報交換の場も設けるとともに、在学中の訓練生の声を公式ウェブサイト等でPRする等の工夫により、社会人入学者数を増やす。</p>
	<p>4-2: 男子の入学者数を定員の1割以上とすることを旨とする。そのために、男性保育者についてのリーフレットを毎年度更新して、公務員保育士採用試験合格者や公立の保育施設に勤務している卒業生のインタビュー記事等を掲載するなど、タイムリーな情報を提供する。</p>
	<p>4-3: 卒業生の「男性保育者の会」の立ち上げ、男性保育士の魅力を発信する活動を展開する。</p>
	<p>4-4: ダンスやピアノ等の特技を入試の判定に活用する受験前優遇制度を設ける。</p>

02 教育

社会構造の変化と学びの形態の多様化が加速度的に進むなかで、新たな時代の変化に対応できる実践型人材の輩出を目的に、建学の精神である「敬天愛人」を教育の支柱とし、個別最適な学びを実現するため「学習者本位の教育」を高度化して学生の付加価値向上を果たすことを最重要課題とする。その課題に対応すべく、自校教育の推進、内部質保証の実質化、短大の特色を活かした教育の展開に取り組む。

中期計画 2029	2025年度 事業計画
I. 「敬天愛人」教育の推進	
1. 建学の精神「敬天愛人」による人格の涵養を基盤とした自校教育を推進し、学生が自らの可能性を最大限に伸ばすことができる教育を行う。	1-1: 授業を通してディプロマポリシーの一つである「保育者としての使命感」を獲得し、「敬天愛人」の理念を理解・体得する。
	1-2: クラス・ゼミ単位での行事参加や地域貢献等での協働を通して信頼や絆を深め、「敬天愛人」を継承する保育者としての基礎作りを行う。
	1-3: 行事参加等、自校教育に関する科目を新設し単位化する、あるいは行事参加を「敬愛スタートアップゼミ」や「敬愛ブラッシュアップゼミ」の出席として取り扱う。
II. 内部質保証の実質化	
1. 学生の個別の学習成果の可視化を基軸に据えた内部質保証の実質化に取り組む。	1-1: アセスメントポリシーの策定、学習成果アンケートの項目や学習成果と授業科目との関連を精査する。
	1-2: 学習到達レポートの運用により、学生一人ひとりのディプロマポリシー到達度を可視化する。
2. 主体的学びに対応した学習支援を充実させる。	2-1: 本学のカリキュラムポリシーの一つである「アクティブラーニングや実践的活動を多く取り入れる」に継続して取り組む。
	2-2: メディアセンターのレファレンス機能を強化する。
3. 学長の迅速な意思決定を可能とする学長補佐体制を強化する。	3-1: FD研修会→(教務委員会→)企画運営委員会→教授会という実質的な課題検討の場の確保と機関決定の流れを構築する。

Ⅲ. 短大の特色を活かした教育の展開

1. 入学後の学びが順調に進むことを意識した入学前教育と初年次教育の充実を図る。

1-1: 入学後の学びが順調に進むことを意識した入学前教育と初年次教育の充実を図る。

1-2: ピアノスキルチェックや絵本ノート課題の提示、キャリア教育に繋がる理想の保育者像についてのワークショップ等の内容を改善する。

2. 「敬愛スタートアップゼミ」(初年次教育)、「敬愛ブラッシュアップゼミ」(専門、応用教育)として展開しているゼミ教育の高度化を図る。

2-1: 「敬愛スタートアップゼミ」において、修学の基礎(協同的な学びの方法、個人発表、協同体験及び発表)やコミュニケーションスキルの修得を目指す。

2-2: 「敬愛ブラッシュアップゼミ」で獲得した学習成果を地域や保育・福祉の現場等に還元する仕組みを検討し、実践的な取組を行う。

3. 本学における教育研究活動を通して、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献する人材を育成する。

3-1: 「認定絵本土」資格を取得して卒業した学生が絵本専門士受験対策講座を受講して「絵本専門士」資格を取得し、勤務している地域や本学近隣の地域に絵本の学びや良さを広める。

3-2: 絵本に関する活動を通して「敬天愛人」の理念を体感する機会を設ける。

03 就職・進路・学生等支援

キャリア教育と就職支援の接続によって、教職協働による総合的な就職支援体制を構築し、学生が卒業後に実社会で活躍できる知識・スキル・能力を身に付け、希望する就職を実現させることで学生の満足度向上を図る。就職実績を上げることで、一般社会からの短大の評価がさらに高まっていくことを目指し、キャリア教育と就職支援の充実に取り組む。また、多様な問題を抱える学生の総合的なサポート体制を構築し、学生生活の充実・活性化を支援する。

中期計画 2029	2025年度 事業計画
I. キャリア教育と就職支援の充実	
1. 公立保育所等への就職支援を強化する。	1 - 1 : 各自治体職員による公務員保育士についての講話の機会を設ける。
	1 - 2 : 大学と連携した公務員試験対策講座（SPI等）の共同受講を実施する。
2. 就職活動のサポートに対する学生満足度を向上させる。	2 - 1 : 教職員間で学生の情報共有を密にする等、学生が就職相談しやすい環境作りを行う。
	2 - 2 : 本学独自の就職説明会（幼稚園、保育園、認定こども園、施設）を開催する。
	2 - 3 : 職種別職場見学ツアーを実施する。
3. 学生に付加価値を付けることを目的に、各種の資格取得を奨励する。	3 - 1 : 認定絵本土、認定ベビーシッター、ピアヘルパー（准子育て支援教育カウンセラー）、准学校心理士、おもちゃインストラクター、幼保英検の取得を奨励する。

II. 学生生活の充実・活性化の支援

1. 国の高等教育の無償化制度の対象学生への円滑な給付を目指すとともに、本学の奨学金制度の充実を図る。

1 - 1 : オープンキャンパス等で保育士修学資金貸付制度の案内をするとともに、そのメリットとデメリットを正確に伝える。また、入学後も保育士修学資金貸付制度の周知を徹底する。

1 - 2 : 生命保険協会の「保育士養成給付型奨学金生制度」の対象校として選定されることを目指す。

1 - 3 : 修学支援新制度（特に多子世帯条件）の周知徹底を図り、経済的に修学困難な学生の利用促進を図り、支援を充実させるとともに、学業への専念が重要であることを理解させる。

2. 学生の心身の健康を守る支援、健康管理、個人情報管理等の多様な取組により、学生生活を安心・安全に過ごせるための支援体制の更なる改善を図る。

2 - 1 : 学生相談室や保健室と連携しての年度始めの情報共有等により、要配慮学生への支援体制を強化する。

2 - 1 : 毎月の教授会終了後に、学生に関する情報共有を行う。

04 研究

短大全体の研究力の底上げが必要である。そのため、産学官連携の推進、研究環境の整備を図り、特色ある研究の活性化に繋げていくことを目指して、研究の高度化や研究成果の地域還元に取り組む。

中期計画 2029	2025年度 事業計画
I. 研究の高度化	
1. 研究活動支援体制を整備し、競争的資金に関する情報収集や教員への情報提供を図り、外部資金の獲得実績を向上させる。	1-1: 競争的資金や助成金に関する最新情報を取得及び集約できる情報収集体制を整備し、資金提供機関や関連団体とのネットワークを構築し、情報交換を促進する。
	1-2: 2025年度の総合子ども学研究所の研究テーマを「子育て支援について」とし、このテーマに基づき、プロジェクト研究参加者を募り、子育て支援事業の実施とともに研究を行う。
	1-3: 子育て支援事業への参加者に対する研究協力についての規約を作成する。
	1-4: 職員の研究支援に関する外部研修やセミナー等への参加を促進し、競争的資金の支援業務や共同研究サポートに対応できる人材を育成する。

II. 研究成果の地域還元

1. 研究情報をステークホルダーに発信する。

1-1: 総合子ども学研究所が発行しているニュースレターを活用し、教員の研究概要等をステークホルダーに発信する。

1-2: 敬愛フェスティバルにおいて、教員の研究成果についてのポスター発表を行う。

1-3: 研究情報の広報のため、報道関係者へのプレスリリースの配信、ホームページでの研究成果の発信を行う。

2. 社会実装（実用化）を通じた研究成果の地域還元を目指す。

2-1: 子育て支援に関する調査を生かした地域に対する子育て支援活動を、定期的実施する。

2-2: 「敬愛ブラッシュアップゼミ」の学びを生かし、地域に還元できる活動を各ゼミで計画し実施する。

2-3: 「敬愛ブラッシュアップゼミ」の子育て支援事業参加実績を参考とし、「敬愛スタートアップゼミ」においても子育て支援計画を立案する。

2-4: 年1回発行のニュースレター以外に、子育て中の保護者向けの情報発信をSNSや紙媒体で行う。

05 地域連携・社会貢献

短大の持つ資源を活用し、国や人種、性別などのボーダーを超えた様々な人との協働、産学官の連携を推進し、高い実務能力を備えた地域社会の中核となる人材を育成する。短大と地域の連携により、地域の活性化・雇用の創出に繋がっていくように、地域の課題解決に貢献できる「地域に必要とされる教育拠点」となることを目指して、地域連携による人材の育成や地域連携の拠点づくりに取り組む。

中期計画 2029	2025年度 事業計画
<u>I. 地域連携による人材育成</u>	
1. 本学の学生が地方公共団体、産業界、他大学等との地域における多様な学習機会を正課内外に拡大・進展させることで、地域連携を推進する能力を備えた人材を育成する。	1-1: 「敬愛ブラッシュアップゼミ」等の授業内での学びを、千葉市公立保育所で発表し交流を図る。
	1-2: 敬愛フェスティバルに千葉市の幼稚園児、小学生等を招待する。
	1-3: 千葉市公立保育士志望学生のインターンシップ制度を整備する。
	1-4: 絵本コンシェルジュが学内外で絵本の読み聞かせを行う。

II. 地域連携の拠点づくり

1. 大学、短大、高校が同一キャンパス内に存在する強みを生かし、地域との交流拠点を想定した組織の機能強化を図る。

1-1: 敬愛学園高校の授業「総合的な探究の時間」(1年次)において、絵本等保育に関する事項に興味関心を持った生徒に対し、地域の保育施設での遊び体験等の支援を行う。

2. 地域連携推進による学外関係者との交流を図る。

2-1: 地域連携センターとの連携や「ちば産学官連携プラットフォーム」への参画による学外関係者との交流を継続する。

2-2: 稲毛地区の子育て支援センターの見学、学外者の本学の子育て支援事業への招待等により交流を図る。

2-3: 教員の専門性を生かした講座やワークショップ、コンサルタント等で地域に貢献する

2-4: 地域で働く卒業生の協力を仰ぎ、絵本に関するワークショップを行う。